

2016年3月期 第3四半期電話会議における質疑応答の概要

(2016年2月2日(火)、東京)

【加工食品】

Q. 2Q時点の下期の営業利益見込 34億円に対し、3Q単独で31億円と進捗が大きく進んでいるように見える。主な要因を教えてください。

A. 主な要因は3点ある。1点目は為替である。通期のドル円の為替前提を122円としていたが、実際は想定よりも下回って推移したこと。2点目はタイのGFPTニチレイ以外の関係会社の業績が想定を上回って推移したこと。3点目は国内生産体制強化に伴う増収効果や集約・効率化の効果が想定よりも強めに出たこと。

Q. 家庭用調理品の中でも米飯類が特に好調な背景をマーケットの状況も踏まえて教えてください。

A. 冷凍米飯市場を活性化させるための施策を各社が実行していることが好調な背景にあると考えている。米飯類については今後も伸びていくとみている。弊社は先月、春の新商品を発表した。本格炒め炒飯のリニューアル商品以外に五目炒飯などを新たに投入している。

Q. 大手小売りのEDLPへの移行による売上減の影響が3Qで一巡したと思う。家庭用調理品のマーケットの足元の状況と今後の見通しについて教えてください。

A. マーケットデータであるインテージSCIの実績(2015年10月～12月)を見る限り、マーケットは前年に対し若干プラスで推移した。一方、当社はマーケットの伸びをやや上回る形で推移した。今後も緩やかながら成長に向かうと見ている。

Q. 業務用調理品が減収となっているが、今後も利益率を重視した取り組みを継続していくのか？

A. 4Q以降も引き続き取り組んでいく。

【低温物流】

Q. 3Qも在庫率は上昇傾向にあるが、今後どの程度保管スペースに余裕があるのか？

A. 少なくとも東京圏については既に他社も含め一杯の状況となっている。

以上

※当文書は電話会議当日の質疑応答内容をすべて記録したのではなく、株式会社ニチレイが編集を加えております。